

# 陸平通信

OKADAIRA 2017年12月1日発行  
編集・発行 / 茨城県稲敷郡美浦村土浦 2359  
美浦村文化財センター（陸平研究所）  
☎ 029-886-0291 FAX 029-886-0471  
Eメール :bunkazai@vill.miho.lg.jp

第Ⅱ期 93号

## 縄文の森コンサート in 陸平縄文ムラまつり



寸劇の一コマ



陸平にちなんだ土器や貝の絵の縄文服

天蚕をイメージした黄緑色の衣装で歌う葦木啓夏さん



さる10月22日開催予定の第20回陸平縄文ムラまつりは台風のため残念ながら中止となりましたが、会場で行う予定でした縄文の森コンサート（陸平をヨイショする会と共催）のみ文化財センターにて開催しました。

縄文の森コンサートは今回で20回目をむかえ、長い間陸平貝塚と遺跡の交流を続けている長野県<sup>ながの</sup>野井町で、“黒耀石のふるさと親善大使”<sup>あしきひろか</sup>をつとめている葦木啓夏さんをむかえ開催しました。コンサートは陸平貝塚の近くにかつてあった蔵後池の伝承をもとに創作された「生田長者満盛と大宮神社」（「ふるさと美浦の昔物語」所収）の寸劇で始まりました。劇の最後に葦木さんが登場し、自然やまつりをテーマにした歌の数々を披露してくれました。有名な御柱祭にちなんだ木遣り歌では会場の皆さんもかけ声で参加し、野外の暴風雨に反して会場内は大変盛り上がりしました。最後にみほ一すが登場して参加者全員で「陸平よはるかに」を歌い、コンサートは幕を閉じました。当日はJ:COMの取材もあり、コンサートの模様はデイリーニュースで放送されました。

悪天候にもかかわらずコンサートにご来場いただきました皆様、また、まつり開催に伴い多くの協賛をいただきました団体や企業の皆様、ありがとうございました。

来年の陸平縄文ムラまつりをどうぞお楽しみに・・・。



黒耀石のペンダントを手に長和町黒耀石体験ミュージアムの大竹幸恵さんが黒耀石を通じてはるか縄文の頃からの交流を紹介



コンサートにみほ一すも登場



寸劇では中島村長がムラオサ役で出演



葦木さんが手に持つ「おんべ」をあげると会場では「ヨイサー！ヨイサー！」のかけ声

青い秋空 笑顔の子ども 響く祭りの わらべ歌 (陸平縄文ムラまつりより)

# みんなで縄文人になったよ!



縄文時代に興味がわきました!

今年の陸平縄文ムラまつりでは縄文服コンテストが行われる予定で、事前に出店団体の皆さんはじめ、安中小学校児童の皆さんがまつりに向けて縄文服を作り、準備をしていました。当日は会場の陸平貝塚ですてきな縄文服を着た縄文キッズたちに出会えるはずでしたが、台風にはかありませんでした。そこでこの紙面にて安中小の皆さんが作った縄文服をご紹介します。会場で見えたかったですね!



みんなで縄文服を作りました!

縄文服作りは形が難しかったけど、色は上手く塗れました。絵をうまくかくことと色を重ねて塗るところを工夫しました。(口喜の葉さん)

「縄文服作りは楽しかったですか〜?」



「楽しかったで一す!!」

縄文服作りは初めてでドキドキしました。工夫した点は三角の模様を同じ色でそろえたところです。(富田結羽さん)



縄文人はどんな服を着ていたのかな・・・

5年生で古代米づくりをしていました。昔の人々のくらしに興味を持っていたので、縄文服づくりは初めてで難しかったけど、楽しかったです。いい経験になりました。縄文服で工夫した点はいろんな色を使うことと絵の具を混ぜて新しい色を作るところです。6年生になったら縄文土器をつくるので楽しみです。(梅澤このみさん)



縄文服、後ろ姿も見てね!

6年生の縄文服と俚謡コンテスト作品は文化財センターで展示します。ぜひご来館ください。  
 <展示期間>  
 12月1日(金)～1月14日(日)

6年生はまつりで自分の作った縄文土器を紹介し、ステージ前に飾る予定でした。6月に陸平をヨイシヨする会土器部会の指導で縄文土器を製作し、10月に野焼きをして個性あふれる素敵な縄文土器が完成しました。また、俚謡コンテストにも4～6年生が日和吟社の指導を受けて味わいのあるうたを作り、参加してくれました。



作った縄文土器を手に・・・ステージでの雄姿を見られず残念でした。

# 俚謡コンテスト結果発表！

～ in 陸平縄文ムラまつり～

陸平縄文ムラまつりで今年も作品を募集していた俚謡コンテストは、まつり当日に受賞作品と受賞者を発表する予定でしたが、事前に各賞が決定してしまいましたので結果を発表します。なお、表彰式はまつりが中止となったため、後日まつり実行委員長の中島村長と日和吟社の高橋壽一会長から賞状等が受賞者に手渡されました。

作品を投稿してくださいだった皆様ありがとうございます。まつりを機会に来年は皆さんも俚謡を作って参加してみませんか。

## 俚謡コンテスト入賞結果

### 小学生の部優秀賞

焼いたさんまに だいこんおろし そえておいしい ばんご飯 (飯田隼輝さん)

### 中学生の部優秀賞

紅葉稲刈り 栗・柿・ぶどう 心わき立つ 秋景色 (塚本美鈴さん)

### 陸平賞

青い秋空 笑顔の子ども 響く祭りの わらべ歌 (塚本博美さん)

### 日和吟社賞

歩く二人の 紅葉の道は 君とおんなじ 頬の色 (佐藤花音さん)

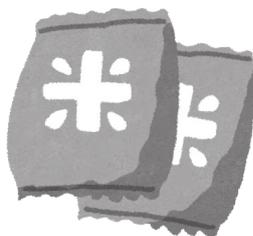


受賞された皆さん おめでとうございます

## 古代米を脱穀！

陸平貝塚公園の田んぼでは毎年陸平をヨイショする会と安中小5年生が古代米を作っています。5月に田植え、9月に稲刈りを行い、10月には昔の道具を使った脱穀作業を行いました。

今年の秋は雨の日が多く、稲刈りを行ってからもなかなか脱穀することができませんでした。5年生は足踏み脱穀機に千歯扱き、唐箕といった今では使うことのない道具を使って脱穀作業を体験しました。



千歯扱きで脱穀

唐箕を使うと、風で粉の選別、うみこい



# 「美浦かるた」で知る

## みほの文化財

美浦かるたは美浦村女性行政推進協議会が作成した美浦村の魅力を紹介しているかるたです。

今回の札は「こ」

### 美しき 浦の宝よ 双口土器

陸平貝塚から出土した双口土器を讀んだ札です。双口土器は陸平貝塚を紹介する際、パンフレットなどに掲載されることが多いため、写真で目にする機会が多い縄文土器かもしれません。

佐々木忠二郎と飯島魁の発掘調査から25年後の明治37年（一九〇四）1月、東京帝国大学（現在の東京大学）の人類学教室で画工として勤務していた大野雲外を通して当時の所有者であった武田俊蔵氏から双口土器が譲り受けられました。以来、考古学の分野に関する本や雑誌などで紹介され広く知られるようになりました。土器を寄贈した武田氏は東京帝国大学総長理学博士山川健次郎の名前入りの受領書を受け取るとともに、大野からも土器や石器を描いた絵が2枚贈られています。大野は陸平貝塚の調査を行うなど考古学に造詣が深く、武田氏とも親交があったようです。双口土器にみられる墨書の「陸平」「37.1」は遺跡名と東京帝国大学が受け入れた日付を記したものです。

土器そのものをみてみましょう。Y字形をした双口土器の形は大変珍しく、双口土器と称されるのも2つの口を持つことによります。製作技術や表面に施されている文様の特徴から縄文時代後期（今からおおよそ三五〇〇年前）に作られたものであることがわかります。2つの口は内部でつながっており、表面には線で文様を描き、線で区切られた部分を磨いたり、細かい縄を転がして縄目の文様を施しています。磨いた部分と縄目の文様のコントラストが双口土器をより引き立てているようにみえます。土器の厚さは薄く、実際に持つと見た目よりも軽いことに驚くことでしょう。また真似して作ってみるととても難しいことがわかります。用途はわかっています。日常生活に使われる土器とは形も異なるため、特別な時に使われたものではないかと思われまます。読み札の言葉が実感されます。

陸平の縄文人が双口土器をどのように使っていたのか想像してみましよう。

※双口土器（複製品）は現在文化財センターで展示しています。ご紹介した内容は「国史跡縄文遺跡陸平貝塚」過去・現在・未来をつなぐ物語」、「陸平研究所叢書3 陸平貝塚1 調査研究報告書2・学史関連資料調査の成果」で詳しく紹介されています。中央公民館図書室・文化財センターでご覧いただけます。



### <お知らせ>

- ・文化財センターでは、毎週日曜日に文化財協力が展示室や陸平貝塚をご案内しています。
- ・11月に陸平貝塚公園内の復元竪穴住居が管理中火災に見舞われる残念な出来事がありました。多くの方にご心配をおかけしました。また励ましの声もたくさんいただきありがとうございました。
- ・文化財センター年末年始の休館日  
12月29日～1月3日

### ワンポイント 古文書講座

文字を讀んでみよう！8

ヒント 人名です

平井七重松  
美 平 松  
藤崎那目松  
松井信徳松  
坂田那高松

答えは今号のどこかにありますよ